

伝えたい内容を多くの人に伝えるために、分かりやすさや美しさなどを考えて表現の構成を練る能力を高める指導の工夫

1 題材名 アニメーションの表現・フリップブック（パラパラ漫画）

2 目標

- (1) アニメーション表現に関心をもち、フリップブックを制作しようとする。  
(美術への関心・意欲・態度)
- (2) 読み手のことを考え、分かりやすいフリップブックを構想することができる。  
(発想や構想の能力)
- (3) 主題に合わせて、連続した動きになるように絵を描くことができる。  
(創造的な技能)
- (4) 自分や友人の表現のよさや面白さを感じ取ることができる。  
(鑑賞の能力)

3 題材について

中学校学習指導要領解説美術編では、内容の取扱いで「写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること」や「日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画、イラストレーション、図などの多様な表現方法を活用できるようにすること」に配慮することが述べられている。そこで、今回、映像メディア表現の一つであるアニメーション表現を取り上げることにした。アニメーションは、一枚一枚の絵が次々に見えることで目に残像が残り、つながって動くように感じられるものであり、表現するにはいろいろな方法が考えられる。フリップブック（パラパラ漫画）もその一つで、連続した絵を次々にめくることでアニメーションを見ることができる。

これまで生徒は、モチーフに対して感じ取ったことや考えたことなどを大切に、表現活動を行ってきた。ここでは、フリップブックの制作を通して「伝える、使うなどの目的や機能を考え発想や構想をする力を育てる」ことがねらいである。また、漫画の起源といわれ、平安時代の末期から鎌倉時代初期に描かれた絵巻物語「鳥獣人物戯画」を鑑賞し、漫画の基礎を学ぶことで、日本文化のすばらしさを知る機会にしたい。さらに、制作に当たり、各自がカッターナイフで紙を切り、50枚のフリップブック紙を準備する活動を通して、昨年学習したカッターナイフの正しい使い方が身に付いているかどうかを確認したい。

今回は、伝えたい内容をより分かりやすく伝えるためにはどのように構成し、制作していくかということに重点を置き学習するため、以下のような事前調査を行った。

(平成23年9月16日 男子15人 女子13人 計28人 調査)

伝えることや相手を考え、作品を制作していますか。

はい7人

いいえ21人

この結果から、生徒は「相手に伝える」ことをあまり意識していないことが分かる。

そこで今回は、誰かに読んでもらうことを前提とし、伝えたいことを明確にした上で、読み手が興味や関心をもつような内容を考えさせるようにしたい。作品完成後は相互に読み合い、評価し感想を交換することで、「相手に伝えること」の重要性を意識させていきたい。また、描画表現の苦手な生徒には、単純化された形を変化させるだけでフリップブックは表現できることを助言することで、生徒が安心して意欲的に制作できるように支援していきたい。

4 道徳教育との関連

相互鑑賞活動を通して、自己理解や他者理解を大切にしよう心と心を育み、道徳的心情を養う。

(内容項目2-(5)個性の立場や尊重)

5 指導計画（6時間扱い）

時	指導内容	評価の観点			評価規準
		関	発	技鑑	
1	参考作品を鑑賞し、学習計画を立てる。	◎		○	アニメーション表現に関心をもち、フリップブックを制作しようとしている。
② 構	読み手のことを考え、テーマに合わせた画面構成をする。		◎		読み手のことを考え、分かりやすいフリップブックを構想している。

3	作品のイメージを膨らませながらフリップブックの紙を切る。		◎	カッターナイフを安全に正しく使い、紙を切っている。
4 5	連続した動きになるように絵を描く。		◎	ワークシートを基に、主題に合わせて、連続した動きになるように絵を描いている。
6	互いの作品を鑑賞する。		◎	自分や友人の表現のよさや面白さを感じ取っている。

## 6 本時の学習

### (1) 目標

読み手のことを考え、テーマに合わせた分かりやすいフリップブックを構想することができる。

### (2) 準備・資料

参考作品、ワークシート、鉛筆

### (3) 展開

◎言語活動の充実のための手立て

学 習 活 動 ・ 内 容	支援・指導上の留意点、評価
1 本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを拡大したものを使い、課題を確認することで、本時の見通しをもつことができるようにする。</li> </ul>
<p>読んでもらう人を意識し、テーマ「成長」に合わせて画面構成をしよう。</p>	
2 画面を構成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>背景の変化</li> <li>大小の変化</li> <li>位置の変化</li> <li>数の変化</li> <li>変形（モーフィング）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み手が興味や関心をもてるものを考え、それを基に、テーマに合わせて画面を構成する。</li> <li>読み手の心や気持ちを傷つけるような内容にしないことを確認する。</li> <li>参考作品を掲示することで、動きを組み立てやすくする。</li> <li>ワークシートに大まかな動きを描くことで、考えをまとめやすくする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎<b>評</b>発想や構想の能力（観察、ワークシート）            〈B〉読み手のことを考え、分かりやすいフリップブックを構想している。            〈A〉読み手のことを考え、動きを整理した分かりやすいフリップブックを構想している。</p> </div>
3 グループ別に互いの構想にアドバイスを与える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>友人のアイデアのよさを見付ける。</li> <li>自分の構想を客観的に見つめ直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎互いにワークシートを交換し合い、アドバイスをもらうことで、読む人のことを考えた作品にしていく。</li> <li>◎ワークシートを活用し、互いの構想のよさや面白さに気付くことができるようにする。</li> </ul>
4 クラス全体で、画面構成をする際のポイントについてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>数人の生徒に、自分の構想とそれに対する友人のアドバイスを発表させ、教師が助言することで、作品をよりよくするポイントを明確にしていく。</li> </ul>
5 次時の学習内容について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時はカッターナイフを使って、フリップブックの紙を切ることを伝える。描く活動は再来週となるので、本時で満足した画面構成ができなかった生徒は、描く活動までに、画面構成を練り直しておくことを伝え、活動に遅れが出ないようにする。</li> </ul>